

NO34 江戸の交通・上方

再度復習

■陸上交通の発達

五街道は何か！にかかっている。下図…日本橋 起点に書いてあるがこの図が全てと
いてよい。北国街道や中国街道は脇街道であって五街道ではない。街道を管理するのは→
道中 奉行(大目付・勘定奉行から各1名が兼任)の支配であることは意外に出る。

㊦五街道

初めは五海道と書いた。1716年、東海道は海端を通るから東海道、中仙道は中央の山道だ
から中山道、他の3道は海端も山地も經由しないから道中と呼ぶようになった。五街道以外
に、脇街道があった。脇街道は、五街道以外の脇道のことである。主なものに、伊勢街道・
北国{ほっこく}街道・中国街道・長崎街道などがある。伊勢街道は、東海道四日市・石葉
師宿の間から分岐した伊勢参宮のための街道である。北国街道は、江戸と佐渡を結ぶため、
信濃追分{おいわけ}で中山道と分かれて直江津に至る街道である。中国街道は、東海道に
続く大坂・赤間関{あかまがせき：下関}の陸路である。

4kmごとに一里塚が設置され勘定奉行が支配。人馬の数も重要。しかし各宿に人足と
馬を用意するのは誰なのかだ！人馬の数は早稲田大で出題されている。甲州道中の人馬の負
担量はいくつか？さあ答えてほしい。答えは人足25人、馬25疋だ。

東海道	53宿	人足100人	馬100疋
中山道	67宿	50	50
甲州道中	44宿	25	25
日光道中	21宿	25	25
奥州道中	10宿	25	25

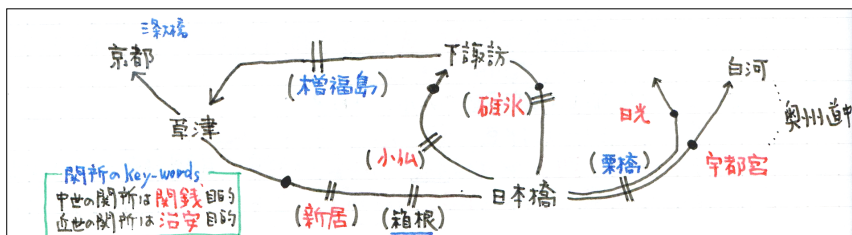
・関所→政治・軍事上の必要→手形が必要

江戸の防衛・大名の妻子の監視 “入鉄砲に出女”

※ 架橋しない川(軍事上の理由)

ex. 太井川、安倍川 …川越人足 天竜川…渡船

㊦関所



宿 駅

には大名が泊まる→本陣などの宿が置かれる一方で、一般の人が宿泊する→旅籠
や木賃宿も常識的に知ってほしい。伝馬役や継飛脚(幕府が使用する公用の飛脚)の
差配(手配)をする問屋場が設けられた。

関所のポイントは「中世の関所は関銭(経済)目的、近世の関所は治安目的」

Pain is inevitable Suffering is optional

である。具体例の中でも東海道の箱根・新居は頻出。

- ・宿駅(宿場)…2~3里毎に宿泊施設 一定数の人足・馬(伝馬)を配置
- ・本陣・脇本陣…大名や役人 旅籠…木賃宿…一般
- ・問屋場…人馬継立など事務を担当 不足分は周辺の助郷役で補う
- 飛脚制度→継飛脚(幕府の公用)・太名飛脚(大名)・町飛脚(民営)
 - 東海道を90時間で走った、急御用は68時間
 - 三度飛脚(月3回 東海道を6日で 定六・飛脚とも) →飛脚問屋が運営

NO264 近世の海上交通や交易 2014本試

近世の海上交通や交易に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の(1)~(4)のうちから一つ選べ。

X 幕府はアイヌとの交易をさかんにするために、倭館を設けた。

Y 北前船は、おもに上方で造った酒を江戸へ輸送した。

- (1)X 正 Y 正 (2)X 正 Y 誤 (3)X 誤 Y 正 (4)X 誤 Y 誤
正解→(4)

NO265 近世の西日本の流通 2016本

近世の西日本の流通に関して述べた次の文XYと、それに該当する人名adの組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

X 大坂と東北地方とを結ぶ、西廻り航路(海運)を整備した。河村瑞軒

Y 高瀬川の開削を行い、内陸部の河川舟運の発達に寄与した。角倉了以

- a 河村瑞軒
- b 紀伊国屋文左衛門
- c 田中勝介
- d 角倉了以

① X-a Y-c ② X-a Y-d

③ X-b Y-c ④ X-b Y-d

正解→②

NO266 近世の水運 2002本

近世の水運について述べた文として誤っているものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 末次平蔵が新たな水路として高瀬川などを開削した。
- ② 南海路を廻船が定期的に運航して、物資輸送を行った。
- ③ 琵琶湖や淀川・利根川などで水上輸送が積極的に利用された。
- ④ 河村瑞賢が東廻り海運・西廻り海運を整備した。

誤文→①末次平蔵でなく河村瑞賢である。

NO267 近世の陸上交通 2002 本

陸上交通について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 中山道には、品川から大津まで 53 の宿駅があり、五街道のうち最も宿駅が多かった。
- ② 宿駅には、人馬による輸送業務をする問屋場や、庶民の宿泊施設である本陣があった。
- ③ 東海道の碓氷などでは、宿駅が設けられて旅行者や荷物が厳しくあらためられた。
- ④ 東海道の大井川など特定の河川では、幕府の政策として橋を架けることを禁じた。

誤文→④

NO268 近世の東北諸藩 2016 本 やや難問

近世の東北諸藩に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X 仙台藩主伊達政宗は、メキシコと直接貿易を開くために、家臣をスペイン（イスパニア）に派遣した。

Y 倭約を励行し、特産物の生産を奨励した藩主に、秋田藩主佐竹義和がいる。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 誤
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

正解→X 正しい。Y 正しい、教科書 234 ページ参照せよ！

NO269 庶民の旅 2007 本

民衆の旅に関連して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

X お陰参りといわれた伊勢神宮への集団参拝がみられた。

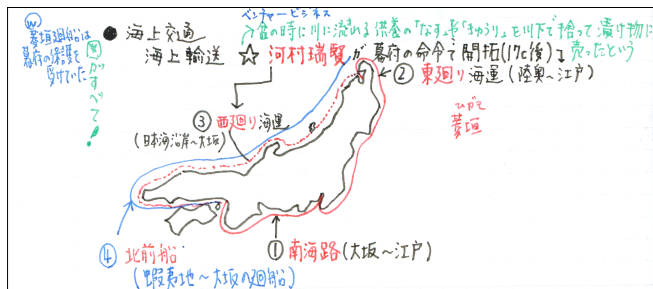
Y 庶民の間で、湯治や物見遊山の旅がさかんになった。

- ① X 正 Y 正 ② X 正 Y 正
- ③ X 誤 Y 正 ④ X 誤 Y 誤

正解→①

海上交通も下記の図がすべて。江戸・大坂間の航路を→**南海路**といい、ここに→**菱垣廻船**と**樽廻船**が就航した。**樽廻船の語源は樽詰めにした「酒」**を運んだことにある。「しょう油やみそ」という正誤問題があったが、基本的に物資は大坂から江戸へ運ばれたこと。そして酒は灘や伏見の関西で造られていたことを考えるとわかる。

なお、**樽廻船**のほうが船足が速く、次第に菱垣廻船は圧迫されていったこと。江戸十組問屋（後述）はその菱垣廻船を差配したことも、正誤問題で問われている。



これに対して酒田など日本海沿岸の港をでて、津軽海峽経由で江戸へ入るルート→**東廻り**海運(航路)。関門海峽から瀬戸内海を経て大坂へ入るルート→**西廻り**海運(航路)といい、ともに 16 世紀後半に→**河村瑞賢**によって開

かれた。

NO270 江戸と上方 2007 本試

江戸と上方との経済的な関係について述べた文として正しいものを、下から一つ選べ。

- 1. 江戸では主に銀貨が、上方では主に金貨が使われた。
- 2. 菱垣廻船が上方の商品を江戸に運んだ。
- 3. 上方の商品を取り扱う商人たちは、江戸で二十四組問屋を結成した。
- 4. 木綿や菜種は、江戸周辺で盛んに生産されて上方に送られた。

正解→